会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 三宅
日 時	平成28年6月3日(金曜日)		開 議 午前 10 時 00 分 閉 議 午前 10 時 45 分
出席委員	小島、 並河、齊藤、菱田、藤本、明田、湊		
出席理事者			
出席事務局	鈴木係長、三宅主任		
傍聴者	市民 名	報道関係者 名	議員 名

会 議 の 概 要

10:00

1 開議（小島委員長あいさつ）

[事務局日程説明]

2 案件

（１）行政視察の総括について

<小島委員長>

各委員からの報告を別紙資料に取りまとめたので、それを参考に、各委員の意見等を確認し、視察項目ごとに総括を行いたい。

自転車利用促進プラン（福山市）

<並河副委員長>

福山市の道路整備に対して、本市では道路の拡幅整備等が中々進んでおらず、交通安全対策を含め、自転車通行帯の設置等は今後の課題と感じた。

<齊藤委員>

レンタサイクル事業に関しては、本市の場合、現状では料金が高いため、通勤等にも生かされていない。利用率を上げるためには、料金を低く抑える必要があるが、管理運営者と民間の駐輪場との関係もあることから、料金を下げることは難しい状況であり、今後の課題である。

<菱田委員>

本市では、特に高校生の自転車通学におけるマナーが悪いことをよく聞くことから、福山市の事例を生かしていければと考えている。

<藤本委員>

福山市ではJR福山駅を中心とした5km圏域を連続性のある自転車ネットワーク路線として選定し、延長10.5kmを自転車通行ゾーンとして整備されており、レンタサイクル事業にも取り組まれていたが、本市では、観光を主眼としてJR4駅を拠点としてレンタサイクル事業に取り組むもので、少し福山市の事例とは違うと感じた。ただ「福山自転車マップ」は大変良くできており、観光に生かされている。本市も参考にして、取り入れるべきと考える。

<明田委員>

クリーンで機動力があり、健康的・経済的な自転車に着眼し、持続可能なまちづくり・集約型都市構造をめざす、このような観点から施策に取り組まれていることを

感じた。また、事業者や市民についても、行政的な課題として共有され、そのような中で取り組みを進められていることが、施策がスムーズに進む要因と感じた。

< 湊委員 >

すばらしい取り組みをされているが、本市の場合、道路の幅員をとれない状況にあり、まずは歩行者優先の取り組みを見直す必要があると感じている。福山市の事例は今後、参考にして色々と提言をしていきたい。

< 小島委員長 >

各委員の意見等からもあったように、本市ではインフラ整備が中々進んでいない状況、レンタサイクルについても観光を中心として、日常生活には活用しにくい状況、また、学生等の自転車マナーの問題など、様々な課題が見えた視察となった。また、自転車マップの活用や市民への定着が窺え、参考となる点もあり、今後の活動に生かしていきたい。以上の点を踏まえ、総括としたい。(了)

東平尾公園・レベルファイブスタジアム(福岡市)

< 小島委員長 >

施設見学を通じて、特に意見等があれば。

< 並河副委員長 >

都市公園の中に建設され、市民にも親しまれているようである。本市で建設予定のスタジアムとは環境的にも違いがあるが、実際のスタジアムを見学できて参考になった。

< 齊藤委員 >

芝生管理について、努力すれば年間約1200万円で抑えられることがわかった。

< 明田委員 >

やはり施設の管理等が非常に大変であることを改めて感じた。

< 藤本委員 >

まずは本市にしっかりと建設できるよう取り組んでいかなければならない。

< 小島委員長 >

各委員の感想等を聞かせていただいた。この項目に関しては以上とする。

農力を育む基本条例・基本計画、JA伊都菜彩(糸島市)

< 並河副委員長 >

JA直売所に関しては、観光バス等も多く入っており、商品揃えも多く、大変賑わっていた。本市で同様に商品を揃えることはできないが、工夫次第ではもっと客を取り込めるのではないかと感じた。

< 齊藤委員 >

都市近郊型の直売所であり、大変繁盛しているようである。商品を搬入されていた農家の方に聞いてみると、非常に厳しい審査があり、2回苦情を受けると出品禁止となるなど、厳しくされているようである。また、これだけ大きな直売所があると、小さな直売所は淘汰されているようであり、本市においても直売所に関して色々な要望等を受けるが、そのような点にも留意しなければならないと感じた。

< 菱田委員 >

食料・農業・農村基本法に基づく基本計画等は各市町村で取り組まれているが、糸島市ならではの個性ある取り組みをされていると感じた。特にグリーンツーリズムの推進や子どもたちの農業体験を通して地域農業の活性化に取り組まれており、直売所に関してもその延長線上にあるように感じた。また、糸島ブランドが定着されており、隣接の大都市福岡では、糸島ブランドを売りにされている店も目に付き、

なるほどと感じた。

< 藤本委員 >

JA系島「伊都菜彩」は、年間40億円の売り上げを出しており、本市もめざしていくべきであると感じた。特に年間観光客580万人のうち45%の人がそこへ行って買って帰るとのことであり、本市ではまだ観光と農産物販売とが結びついていない現状であり、今後、観光と直売所を結び付けて販促につなげていく取り組みが必要である。また、販売農家戸数1,523戸のうち、年間販売額1千万円以上の農家は338戸あるということから、やはり売れば農業も成り立つものであり、本市も同様にめざすためには、商品揃えから根本的に立て直していかなければならないものと感じた。

< 湊委員 >

市の立てた基本計画等は十分に生かされているようであったが、市民意識の変化としては、なかなか伝わらず難しい面があるように感じる。直売所に関して、行政が入ってどうこうできるようなものではなく、民間でどのように参入してもらえるのか、それに対して生産者と連携してどのように取り組めるのかということである。例えば、国道372号の交通量も大変増加していることから、阪神方面をターゲットとして、西部地域にそのような施設ができれば、観光にも活用でき、農業の活性化にもつながるものとする。

< 小島委員長 >

基本条例、基本計画に基づき、市民・子どもたちとも連携した取り組みの推進により、まちづくりにおいて様々な波及があるように感じられた。その中心となるがJA伊都菜彩であり、厳しいチェック体制のもとで糸島ブランドとして定着し、観光面で大変寄与しているようである。特に観光と農業の連携について、今後の参考としていきたい。以上で総括としたい。(了)

周南コンベンションシティ推進事業(周南市)

< 並河副委員長 >

各種大会や会議、イベント等の誘致に向けて、市内のホテルにおいても積極的にアピールされ、まちぐるみの取り組みの様子が窺えたが、本市においては、ホテルや宿泊施設、集会のできるホールや集会所などが少なく、同様の施策は難しい。

< 齊藤委員 >

周南市の既存施設を有効利用した取り組みであり、市民向けではなく、市外に向けて発信して交流人口増を図るすばらしい施策である。本市も参考にすべきである。しかし、施設、食べる場所、泊まる場所の3拍子揃って生かせることであり、施設、食べる場所があっても、泊まる場所がないといけないことから、それが欠けているところが本市の欠点である。ホテル誘致に積極的に取り組むべきである。

< 菱田委員 >

周南コンビナートがあり、新幹線駅や山陽自動車道インターのある立地を生かし、交流人口が増加している。それをさらに伸ばすためにコンベンションの活用に取り組み、にぎわいの創出が図られている。それにより地域の文化がしっかりと確保されているように感じられた。何ほ良い施設をつくったとしても使われなかったらただの箱ものであり、それをうまく活用する工夫がなされている。本市においてもガレリアかめおか等の利用度を高めるために見習うべき点があると感じた。

< 藤本委員 >

基本的には周南市はコンベンションを誘致できる条件が整っている。本市においては、今後スポーツ施設ができた時にどのように取り入れていけるかということであ

る。あれだけ条件が整っているところであっても、コンベンションシティとして、旅行会社等とも連携し、滞在型観光へ誘導する施策に取り組みられていることから、本市においても滞在型観光への方向へ導けるような取り組みが今後重要である。

< 明田委員 >

周南市は本市の約3倍の面積を有し、人口は1.5倍、一般会計予算は640億円の財政規模である。それでも今後の向うべき方向として、「周南コンベンションシティ」の推進により一層の市の活性化に取り組みられている。市民の意識向上にもつながり、市域全体の活性化策と感じた。周南市は農業、産業、観光等、それぞれが恵まれていると思うが、なおかつ積極的に取り組まれており、重要な視点を勉強できた。本市では、最重要の活性化策が明確になっておらず、早くそれを見つけ定めることが必要であると感じた。

< 湊委員 >

行政の体質、根本的な考え方として、いかに施設を利用者に喜んで使ってもらえるかということの違いを感じた。前例がないからできないといったことをよく返されるが、その感覚を変えていく必要がある。また、本市では国・府の施設がない中、議員間では、活力よりも福祉と言われるが、まずは活力をもって、福祉につなげていく方向性をとるべきである。

< 小島委員長 >

コンベンションシティの取り組みに関しては、特におもてなしの姿勢が窺えた。本市においても色々施設はあるが、それが本当に有効活用できているのかと感ずることがある。また、インパクトのある施設もない中で、「まるごとスタジアム構想」のように、大きく打ちだしていく必要があるように感じている。

< 齊藤委員 >

周南市はコンビナートのまちであり、昼間は街中に人は少ない。また、ビジネス客が多く、ホテル利用があるが、土日の利用は少ないものと思われる。そこをうまく活用されているように感じられた。

< 小島委員長 >

その点からも、ゆっくりと滞在してもらえる滞在型観光への取り組みが図られているように考える。本市においても参考にしていかなければならない。

< 並河副委員長 >

市民に向けても促進していく必要があると考える。

< 小島委員長 >

他に意見等がなければ、以上をもって総括としたい。各項目の視察報告書のまとめにあたっては、正副委員長に一任願いたい。(了)

(2) 委員会の今後の取り組みについて

< 小島委員長 >

次回以降の月例開催も踏まえ、今後の活動について意見等があれば協議していきたい。

< 藤本委員 >

スタジアム建設予定地に関連して現地視察を実施し、色々な課題を明らかにしていく必要があると考える。

< 齊藤委員 >

それに関連して執行部の説明を受けたい。駐車場の確保等も含めて考えていく必要がある。

< 湊委員 >

委員会の取り組みとしては、これまで各種団体等と意見交換会を実施してきた経過があり、以前、商店街連盟との意見交換会を考えていたこともあることから、できれば、今後もそのような場を設けてもらいたい。

< 小島委員長 >

スタジアム関連についての意見があったところであるが、今回は、商店街連盟との意見交換の場を設ける方向で進めていきたいと思うがいかがか。(了)

< 事務局 >

商店街連盟との意見交換に関しては、次回の6月定例会審査日程の中で、引き続き協議願いたい。

3 その他

(事務局より6月定例会審査日程(予定)を説明)

散会 ~ 10 : 45